

令和元年度小松市立東陵小学校 学校評価 (年度末)

めざす児童生徒像

- ・よく考える子 (興味・関心をもち、主体的に学び、自分の考えを深める子)
- ・思いやりのある子 (自他を大切にし、協力してお互いを高め合う子)
- ・がんばりぬく子 (自己の目標達成に向けて、心身の向上に努める子)

※児童生徒達成結果-教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策		
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)						
				教員	児童生徒	保護者	教員	児童生徒	保護者				
学校重点項目 (学校で設定)	人間関係の向上 生徒指導	①～④の達成度を85%以上にする。 ⑤「学校が楽しい」の「あてはまる」児童の割合を、80%以上にする。	① 生徒指導の3機能を生かした教育活動を進めている。	100			100			①②に関しては、人間関係力の向上を目指し、教職員が意識的に取り組みを進めたり改善に努めたりしてきた成果が表れている。③④については、縦割りあいさつ、給食、活動等を通して、友達に対して優しい言動で接することができる児童が多く増えてきた。⑤については、「キラリタイム」の導入によって、みんなでゲームすることを楽しみにしている様子がうかがえた。	①②に関しては、当たり前でできたことを褒めていく。また、児童が主体的に取り組むことができるような仕掛けや声かけをしたり、個別支援等で児童の繋がりを強化したりしていく。③④については、高学年を中心に次年度に向けたスムーズな引き継ぎを行い、自ら関係づくりを進めていけるよう働きかけていく。⑤キラリタイムを中心に、楽しさを追求していく。		
			② 特別活動における人間関係づくりの時間や主体的な児童会活動・縦割り活動を推進している。	100	92.9	91	-7.1	100	92.9			90.5	-7.1
			③ 発達段階に応じた人間関係の向上が見られる。	83.9				92.3					
			④ 高学年のリーダーシップの向上が見られる。	100				100					
			⑤ 「魅力ある学校づくり」において「学校が楽しい」と感じている。	100	85.8	94.9	-14.2	92.3	87.5			92.8	-4.8
			集計	96.8	89.4	93.0	-10.7	96.9	90.2			91.7	-6.0

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)				
				教員	児童生徒	保護者	教員	児童生徒	保護者		
重点項目 石川県共通	業務の改善 働き方	①～⑤の平均を80%以上にする。	① 校務分掌や業務の整理・統合が図られており、業務の平準化がなされている。	85.7			100			業務の平準化や会議時間の削減などは、おおむね達成することができた。指導計画の提出により、1週間先の計画を立てて次週に望むことはできるようになったが、毎日の業務に追われ、余裕が持てない職員もいる。3日前の準備などもぎりぎりになって提出になってしまうことが多い。定時退校日の残業時間、校務支援サポーターの活用状況が個々によって差があり、まだまだ改善の余地がある。	余裕を持った行動ができるかどうかは、一人一人の意識改革しかない。見通しを持った計画の中で、TODオリストを作成し、3日前提出を厳守するよう、管理職が働きかけていく。校務支援サポーターの利用についても事前の計画が必要である。余裕を持った仕事が進められるような声かけ、校務支援サポーターの利用についての声かけなども計画的に行っていく。
			② 各種会議回数の削減をし、会議時間も1時間を越えないようにする。	86.7			100				
			③ 1週間先の計画を立て、見直しをもって業務を進め、叱咤の変更をなくす。	86.7			91				
			④ 提出物を締め切り3日前に余裕を持って準備する。	64.2			75				
			⑤ 校務支援サポーターの活用の効率化を図る。	57.2			45.5				
			集計	80.6			82.4				

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)			達成状況の分析	改善策	
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)					
				教員	児童生徒	保護者	教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	学校研究	深まりや広がりのある話し合いができる児童の割合が80% (教師アンケート)	① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	100			100			①外国語の山野先生、国語の要請訪問による指導主事の先生による講師の招聘を計画的に実施できた。 ②③各学年の研究授業において整理会を持ち、1学期に一人一人の授業での取り組みを具体化させる取り組みを実施できた。2学期以降はその取組を意識させながら授業実践に取り組んだ。 ④職員アンケート結果は、92.3%であるが、本校独自の学習の基盤調査における児童対象のアンケートの「しめしながら話す」は、46% (4月) から55.3% (1月) となった。発言する意識や根拠を示す意識が高まった。 ⑤多くの児童は、課題意識を持ち、進んで学習に取り組んでいる姿がうかがえるが、中には、そうでない児童もいるのが実態である。 ⑥教師の深めたり、広げたりする話し合い活動と、児童との思いに差が見られる。 ⑦発表力、記述力共に児童と教師との思いの差が見られる。教師側は、発言に対する消極的な様子、発言時の説明の足りなさを感じているが、児童にはその思いが少なかった。 ⑧振り返りの活動の活動は、教師児童ともに85～86%あり、取り組みはできている。学びの達成感、中間に比べ、どちらも伸びている。	①3学期中に次年度の研究方向性を決め、計画的に進められるように準備しておく。 ②③1学期に立てた一人一人の取組について、PDCAサイクルで見直ししたり、全体で共有したりする場面が少なかったため、計画的な取組として推進する。 ④コミュニケーション力については良い傾向が見られてきているが、まだ数値的には低い。指導改善と、取り組みの継続を進めていく必要がある。	
			② 研究主題に迫る目指す授業像 (児童生徒像) を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	100			100					
			③ 教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組む、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	100			100					
			④ 児童は本校のコミュニケーションスキルにあったコミュニケーションをとることができる。	92.9			92.3					
			集計	98.2			98.2					
	指導力の向上	授業	③と④の児童の割合が ③…80% ④…70%	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	91.7	83	-8.7	100	88.2	-11.8	①課題意識をもって取り組んでいる児童の割合が増えたが、主体的に学習に向かえない児童もいる。 ②⑤自分の考えが深まったり広がったりするということかどのようかとなかを教師も児童も共有することが必要である。また、振り返りの中に具体的な姿や言葉が表現されるような手立てを考えていかなければいけない。 ③④児童の意欲を持続しながら、不足していることを教師が補いながら、求めている姿に近づけるようにする。また、思考ツールを活用しながら話せるようにしていく。話しっぱなしでなく、文章化することも併せて指導していく。 ⑥自分の考えが変容したことを意識させるために話したり書いたりする活動を取り入れ、教師が価値づけるようにする。	①多くの児童は、課題意識を持ち、進んで学習に取り組んでいる姿がうかがえるが、中には、そうでない児童もいるのが実態である。 ②教師の深めたり、広げたりする話し合い活動と、児童との思いに差が見られる。 ③発表力、記述力共に児童と教師との思いの差が見られる。教師側は、発言に対する消極的な様子、発言時の説明の足りなさを感じているが、児童にはその思いが少なかった。 ④振り返りの活動の活動は、教師児童ともに85～86%あり、取り組みはできている。学びの達成感、中間に比べ、どちらも伸びている。
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。(発表力)	75	82.8	7.8	100	91	-9		
				③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。(記述力)	41.7	83	41.3	58.3	82.4	24.1		
				④ 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	50	82.9	32.9	61.5	85.4	23.9		
				⑤ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。	83.4	86.2	2.8	85.7	86	0.3		
				⑥ 児童生徒は、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	83.3	91.9	8.6	100	93.7	-6.3		
	学力の定着	学力調査	活用問題テストの再テストで平均点の上昇が10% 記述問題の点数の上昇がみられた児童が70%	① 学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	100.0			100			①1回目 (自校採点による全国・基礎学力調査) 2回目 (本結果に基づき、S T表による) 3回目 (12月の3・5年生の学力調査1問分析を含む) の年間3回の学力向上研修を実施した。 ②部ごとの毎月の振り返り、次月の確認を分掌部会と同時に実施できた。また、毎学期の各部のリーダーによる振り返りも実施できた。 ③取り組みの共有を考えていたが、家庭学習を中心に進むこととなったため、できなかった。 ④定期的な活用問題テストの実施。1回目は初見のテスト、2回目はその再テストのサイクルで実施した。学力調査前には、過去問の活用プリントを準備し、授業学習の振り返りやまとめを持って学習することは十分とはいえない。 ⑤自学の質の向上を目指し、全校でノートを交流したり、小々連携でよい内容を紹介し合ったりした。 ⑥年間5回行った家庭学習がんばりカードの結果から、多くの児童は家庭学習の習慣がついているといえる。	①1回目は県や市から提示された分析方法 (S T表・1問分析) に初めて全校で取り組んだ。次年度もこれらの良い点を取り入れながら精選して分析の材料にしていきたい。 ②毎月の振り返りやリーダーの振り返りが分掌部会と同時に定着し、確実な実施に結び付いている。共通理解と継続を図っていきたい。 ③教務や学力向上担当者が連絡を取りながら、小中連携の会だけでなく、連絡を取り合っていく。 ④期間を決めて過去問の活用プリントを進めることは継続しつつ、活用問題については適切な問題を精選しながら改善を図りたい。
② 学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。				100.0			92.8					
③ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携)				100.0			88.9					
④ 活用問題に取り組ませ、解説を丁寧におこない、学期末に再テストを実施する。				100.0			100					
集計				100.0			95.4					
家庭学習	自分で計画を立てて勉強していると答える児童の割合が80%以上	① 自分で計画を立てて勉強している (3年以上)	50	88	53.1	38	71.4	91.6	61.8	20.2	①②自学の交流・紹介を通して、自分の力になる自学ができるよう、評価・指導を行っていく。 ③家庭への啓蒙として、家庭学習に関する資料や家庭学習がんばり週間の取組の紹介等のお知らせを保護者に配布していく。	
		② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている	100			100						
		③ 10分×学年の時間、毎日勉強している。	77.8	86.6	66.1	8.8	77.7	87.4	71.9	9.7		
		集計	75.9	87.3	59.6	23.4	83.0	89.5	66.9	15.0		